



〈雜録〉戦争卜英國放資界ノ變遷

津村，秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(4):689-695

(Issue Date)

1917-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052692>



雜 錄

戰爭ト英國放資界ノ變遷

法學博士 津 村 秀 松

一

英吉利ハ、今回ノ戰爭ノ爲メニ、既ニ今日マデニ累計四十億八千二百萬磅ノ戰費ノ支出ヲ要求シタ。此内、一九一六年度末マデノ分ガ、總計三十七億三千二百萬磅デ、又其ノ内、二十八億四千二百萬磅ガ自國ノ戰費デ、殘額八億九千萬磅ガ諸殖民地ヲ初メ與國ニ對スル戰費融通額トナルノデア。斯ク英吉利ノ内外ニ對スル戰費ノ負擔ガ莫大ナル金額ニ達スルヤウニナツタカラ、富裕世界ニ冠タル英吉利モ、到底内債ダケデハ行カス、外債ヲモ募ラ予バナラスコトニナツタ。

ソコデ專ラ米國ニ對スル證券ノ動員ヲ行ツタリ、銀行者間ニ屢々對米「クレヂット」ノ設定ヲ企テタリシタ外ニ、英吉利政府トシテモ亦

第一 回 一九一五年十月 英 佛 公 債 (價格九十八、五、分、利、期限五箇年、手取九十六、五、分、利) *五〇、〇〇〇、〇〇〇 磅

第二 回 一九一六年八月 擔 保 附 公 債 (價格九十九、五、分、利、期限二箇年、手取九十、六、七、五、擔保付) 二五〇、〇〇〇、〇〇〇

計 三〇〇、〇〇〇、〇〇〇

* 英佛公債ハ總額一億磅(五億弗)デアツタガ、其ノ内半額ハ佛蘭西ノ分デ、依テ英吉利ノ分ハ差引五千萬磅トナルノデアアル。
 トイフ前後二回ノ大募債ヲ米國市場ニ試ミタコトヤ、僅カデハアルガ、昨年末ニ我國ニ於テスラ壹
 億圓ノ募債ヲナスニ至ツタコトナドハ、即チ此間ノ消息ヲ傳フルモノデアアル。ソレニシテモ、此ノ
 國ノ戰時財政ノ主タル財源ハ、矢張内國債デアツタ。今日マデノトコロ、其ノ高幾何ニ達スルカト
 イフニ、此ノ點ニ就テ、「ステチスト」ハ本年一月六日發行ノ第二〇二八號デ、左ノ如キ統計ヲ掲ゲ
 テ居ル。

戰費支辨ノ英吉利ノ内國債
爲ニスル

種 類	一九一四年	一九一五年	一九一六年
大 藏 省 證 券	一九一四年 八二、八五〇 千磅	一九一五年 二九七、〇八七 千磅	一九一六年 七一九、六〇六 千磅
五分利付國庫債券		一八、二〇〇	三一六、三一五
六分利付國庫債券			一五九、二〇四
戰 費 證 券*			二九、八五七
戰時貯蓄債券**			四一、五〇〇
三分半利付軍事公債	一〇二、〇〇〇	二二九、七九八	六、〇二九
四分半利付軍事公債		五七六、六〇一	
三分利付國庫債券		三一、五四七	
合 計		一、五三、二三三	一、二七二、五一一
聯合國殖民地融通	一八四、八五〇	三二、八〇〇	五七三、〇〇〇
差引 戰費支辨公債實額	一五二、〇五〇	九九八、二三三	六九九、五一一

* War expenditure certificates

** War savings certificates

此表ニヨルト、英吉利ガ、開戦以來昨年末マデノ間ニ、戰費支辨ノ爲メニ募集シタ内國債ノ手取金ハ、累計二十六億一千五十九萬四千磅ニ達スル。ソシテ、此内、聯合國及ビ殖民地ニ戰費トシテ融通シタ分ガ七億六千八十萬磅デアアルカラ前記八億九千萬磅ハ、一九一六年度末即チ一九一七年三月三十一日マデノ豫定額チモ含ンデ居ル分デアアルカラ、茲ニ記スルトコロノ七億六千八十萬磅トハ一致セ差引十八億四千九百七十九萬四千磅即チ約十八億五千萬磅ガ英吉利自身ノ戰費支辨ノ爲メニ募集シタ内國債ノ手取金總計トナルノデアアル。

二

孰レニシテモ、此戰爭ガ、英吉利ヲシテ、内外ノ戰費調達ノ爲メニ、斯克マデ巨額ノ内國債ノ募集ヲ餘儀ナクセシムルニ至ツタトイフコトハ、此國ノ金融界ニ對シテ、著シイ變調ヲ齎サズシテハ止マヌ筈デアアル。ソシテ又此金融界ノ一大變調ガ、現在及ビ將來……即チ戰時ハ勿論、戰後ニ至ルモ、尙ホ當分ノ内ハ、此國ノ經濟上ニ著シキ變化ヲ與ヘルモノデアラウト思ハレル。凡ソ斯克ノ如キコトハ、現時ノ英吉利ノ金融界ナリ又ハ放資界ナリヲ冷靜ニ觀察セントスル者ノ最モ興味アルトコロデアアルガ、幸ニ此點ニ關シテモ、前記ノ「ステチスト」ハ、左ノ如キ詳密ナル放資統計ヲ示サレテ居ルノデアアル。

英吉利ノ放資

(單位ハ總テ千磅)

種 類	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
一、英吉利公債				

戰費支辨ノ爲ニスル公債

一五二〇五〇

九六二三〇

六九五二〇

其他ノ目的ニ出ヅル公債

計

六〇九八〇	六九五〇	四八六〇	一四三〇〇
六〇九八〇	一九〇〇〇	一〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇

二、外國公債

聯合國殖民地融通

戰費支辨以外ノ目的ニ出ヅル公債

計

五九一六〇	三三八〇〇	一五五〇〇〇	五三三〇〇〇
五九一六〇	六八〇〇〇	六五〇〇〇	二四〇〇〇
五四〇〇一	一〇〇八〇〇	三〇〇〇〇	五九七〇〇〇

三、内外地方債

英吉利

印度

殖民地

外國

計

一四八二〇三	七八一八五	三五〇〇	
八五三六五	一〇六〇六一		
二四二六六九	二四七〇四	三五〇〇	四九五〇

四、内外事業資金

鐵道業

銀行業

商業

製鐵、製鋼、採炭業等

海運業

保險業

其他

計

總計

七四六〇五七	五〇五五九	一三二七五	一九一八九
三三九三七	一四一五三	一〇六九	二八五〇
三三二五三四	一六一七五	二五九二八	三六三二一
七五八七四	四〇三八三	二四九九	一七六八七
四八五七四	六六六九四	五八八九	一四三四四
四五四四	二九七一	四〇〇	七五〇
三九七〇四二	三〇九九九七	一九五五	一〇三三二
一六三八五・二	二〇一六〇四	一八六八・五	一〇一六三
二四八三七二	三九一四〇・八	一二四二〇〇・五	一三〇八六一・三

此表、デ見ルト、英吉利ニ於テハ、戰前、内外ニ於ケル各種ノ財政及經濟ノ方面ニ吸收スル資金ガ

二億四千八百萬磅デアツタガ、ソレガ開戦ノ年タル一九一四年ニハ忽チ六割ヲ増加シテ三億九千萬磅トナリ、一九一五年ニハ五倍トナツテ十二億四千萬磅トナリ、一九一六年ニハ五倍以上トナツテ十三億磅餘トナツタ。即チ開戦後三箇年ノ間ニ、此國ノ國民所得及ビ國民財産ノ内カラ、内外ニ於ケル經濟及ビ財政上ニ吸收サレタル金額ハ、前代未聞ノ高ニ達シタノデアル。

三

ソレニシテモ、是丈ケ膨脹シタ資金ガ、内外ニ於ケル經濟上ノ用途ニ吸收サレタノナラバ、ソレハ皆全クノ資本トナツテ働クモノデアルカラ、後日ノ大繁榮ヲ齎ス所以トナルノデアルガ、此間ノ資金ノ需要ノ増加ハ全ク財政上ニアルノデアルカラ、ソレハ利子ヲ生ムモ利潤ヲ生ムモノデナク、即チ貸金トシテ働クガ、企業資本トシテ働クモノデナイ。更ニ此事情ヲ明カニスル爲メニ、左ノ如キ表ヲ掲グル。

年	次	英吉利公債	外國公債	内外地方債	以上公債合計	内外事業資金	總計
一九一三年		六〇九八 千磅	五四〇四 千磅	二四一六七 千磅	八四九五九 千磅	一六三八五八 千磅	二四八三三七 千磅
一九一四年		一兆〇〇〇	一〇〇八〇〇	二二四七〇	一六二一三三	一〇七一六〇	三九一四三三
一九一五年		一〇〇八〇〇〇	三三〇〇〇	三五〇	一〇三三三〇	八六六〇	一七三三三〇
一九一六年		七〇一〇〇〇	五九七〇〇〇	四九五	一二九八四九五	一〇一三	一四〇八六二
計		一八六九〇九八	九七一八四	四六六三	三〇三二八四		

此表デ一見明瞭ナル如ク、戦前ト戦後トニ於ケル英吉利ノ資金ノ用途ニ一大激變ガ生ジテ居ル。戦後内外ニ於ケル諸種公債(但シ地方債ヲ除ク)ガ非常ナ勢ヒデ増加シ來ツテ居ル其ノ一方ニ、内外ニ於ケル事業資金ハ又非常ナル勢ヒデ減少シテ居ル。開戦以後、此國ノ金融市場ガ全ク戦争ノ爲メニ犠牲トナツ

テ居ルコト、及ビ其ノ犠牲ノ程度ガ次第ニ増進シ行クコトノ狀況ガ、此表ニヨツテ容易ニ看取シ得ルノデアル。

四

言フマデモナク、今日、英吉利ノ金融市場ヲ荒ラシテ居ル内外ノ公債トイフモノハ、大部分軍事情債デ、即チ戰費支辨ノ爲メノ公債デアル。試ミニ之ヲ表示シテ見ルト、左ノ如キモノトナルノデアル。

年 次	英吉利公債		外國公債			
	(1) 戰費支辨ノ爲メニ スル公債	(2) 其他ノ 目的ニ出 ヅル公債	(3) 聯合國 殖民地融 通	(4) 戰費支辨以 外ノ目的ニ出 ヅル公債	(5) 内外 地方債	(6) 戰費支辨ノ 爲メニスル公 債(1)(3)合計
一九一四年	一五二〇〇〇	六九五三	三六〇〇	六〇〇〇	三四七〇	一八四八五〇
一九一五年	九八、三三	四八、六	一五五、〇〇〇	六五、〇〇〇	三五〇	一二五、三三
一九一六年	六九五二	一、三〇	五五、〇〇〇	二四、〇〇〇	四九五	一二七、二五一
						二五、九三

是ニ由テ之ヲ觀ルト、今ヤ英吉利ノ金融市場ハ内外ノ戰費支辨ノ爲メニ其ノ全力ヲ傾注シテ、又剩ストコロナシトモイフベキ狀態ニアルノデアル。平生ハ此國ノ放資全額ノ半バヲ吸收スル鐵道業ヲ初メ海運業、製鐵製鋼業、採炭業、銀行業、保險業、及ビ其ノ他ノ商工業上ノ新資本トイフモノハ一昨年來殆ンド數フルニ足ラヌ高トナツテ仕舞フタ(前掲「英吉利放資ノ表」參照)。

尤モ、戰費支辨ノ爲メニスル公債ハ全然産業資金ニ關係ガナイトイフ譯デナイ。其ノ内ノ幾分ハ軍需品ノ製造等ニ投ゼラレテ居ルカラ、ソレ等ハ戰後ノ英吉利ノ經濟ノ發達ヲ助クル資本トナルノ

デアル。ガ然シ、是レトテモ何分軍需品ノ製造デアルカラ、其ノ儘ソツクリ平時ノ資本ニ化シ居ルカハ疑問デアル。孰レニシテモ、英吉利ハ、此戰爭ノ結果、新資本ノ増殖ハ一時中止トナツタト見ルベキデアル。ソシテ、内外ノ戰費支辨ノ爲メニスル募債激増ノ結果ハ、未ダ舊資本ニ對スル蠶食ヲ見ナイマデモ、是レマデノ如クニ、年々ノ國民所得ノ内カラノ貯蓄デハ決シテ支ヘ得ルモノデナク、次第ニ國民財産ニ喰入ルベキ勢ヒデアルカラ、ソレガ著シイ高ニ上ルト、戰後ニ於ケル此國ノ經濟ノ上ニ多大ナル影響ヲ齎スコトハ、今ヨリ期シテ待ツヲ得ベキトコロダト思フ。